

【集団健診（検診）のご案内】

■日時・場所

月日	場所	受付時間
10月29日(土)	総合福祉センター	午前6時～11時
10月30日(日)	「ハピネス」	*感染予防のため、15分ごとに区切ってご案内します。

*昨年度の健診時にお申込みいただいている人は、再度お申込みする必要はありません。

*都合がつかない場合は、個別健診（検診）もあります。

■健診（検診）内容・自己負担額

項目	対象者及び検査内容	一般	下川町国保被保険者	後期高齢者医療
ハピネス健診	18歳以上39歳以下の町民 内容：問診、身体測定、血液・尿・心電図・眼底検査、診察	500円		
国保特定健診	40歳以上74歳以下の下川町国民健康保険の加入者 内容：問診、身体測定、血液・尿・心電図・眼底検査、診察	ご加入の医療保険にお問い合わせください。	500円	
後期高齢者健診	後期高齢者医療保険の加入者 内容：問診、身体測定、血液・尿・心電図・眼底検査、診察			500円
胃がん検診	40歳以上の町民 内容：問診、胃バリウム検査	1,700円	800円	600円
肺がん検診	40歳以上の町民 内容：問診、胸部レントゲン撮影	700円	300円	200円
	内容：痰を採取して検査 (50歳以上で喫煙年数や本数の多い人、40歳以上で血痰の出る人、検査を希望する人)	800円	400円	300円
CT肺がん検診 ⑨肺がん検診を受けられた人は、CT肺がん検診は受けられません	40歳以上の町民 内容：問診、全肺野を撮影	3,300円	1,600円	1,100円
	内容：痰を採取して検査 (50歳以上で喫煙年数や本数の多い人、40歳以上で血痰の出る人、検査を希望する人)	300円	100円	100円
大腸がん検診	40歳以上の町民 内容：問診、検便検査（2日分）	800円	400円	300円
内臓脂肪CT検診	20歳以上の町民 内容：へその高さでCT写真撮影	1,000円	500円	300円

※生活保護を受けている人は無料です。

※50歳以上の男性は、「前立腺がん検診(PSA血液検査)」も2,310円(全額自己負担)で受けられますので、希望される人はお申込みください。

- ・今年度40歳になる人は、「胃がん検診」「肺がん検診」「大腸がん検診」が無料です。
- ・今年度41歳、46歳、51歳、56歳、61歳になる人は、「大腸がん検診」が無料です。



がんは2人に1人がかかるといわれており、日本人の死因第1位となっています。症状が静かに進行するため、症状が出てからでは、がんが進行している場合があります。新型コロナウイルス感染症の流行により、全国的にがん検診の受診率が低下していますが、がんはコロナとは関係なく進行します。症状が無い時に検診を受けることで、初期のがんも発見でき、早期に治療することで治る可能性が高まります。

がん検診は、1回受けて終わりではなく、推奨されている受診頻度を目安に受けることで早期発見・死亡率低下につながります。

肺がん、大腸がん検診
：1年に1回
胃がん、乳がん、子宮がん検診
：2年に1回

がんは症状が静かに進行します

お元気ですか
保健師です

年に一度の健康診断を！
健診やがん検診を受診して
自分の体をチェックしましょう

■申込み・お問い合わせ
保健福祉課 保健・介護グループ
総合福祉センター「ハピネス」
☎・☆413356

すでに、気になる症状がある人はがん検診ではなく、すぐに病院受診をしてください。

集団健診は尿中アルブミン検査も受けることができます！

尿中アルブミン検査は、腎臓の状態を知る項目の1つです。腎臓は体内から不要な物質を出し、必要な物質を出さないようにする役割があります。アルブミンは、タンパク質の一種で体に必要な物質ですが、腎臓の機能が弱まり、老廃物のろ過機能がうまくいかなくなると、アルブミンが尿へ漏れ出てきてしまいます。尿中アルブミン検査をすることで尿へ漏れ出てきているかがわかります。他に腎臓の状態を知る検査として尿蛋白検査があります。尿中の腎機能障害、特に糖尿病による腎臓の病気になるが尿病性腎症の早期発見につながります。

【CT肺がん検診と肺がん検診との違い】

CT肺がん検診と肺がん検診の両方は受けられません。検診の違いをご確認の上、お申込みください。

◆CT肺がん検診のメリット

- ・従来の肺がん検診では見えにくい心臓などの陰に隠れているがんや2cm以下の小さながんなども発見できるため、より早期にがんを発見でき、治療により完治する可能性が高まる。
- ・肺がん以外の呼吸器や循環器の病気を確実に診断できる。
- ・乳腺や肝臓、副腎などの病気が偶然発見される場合がある。

◆CT肺がん検診のデメリット

- ・がんでないのに精密検査や経過観察が必要とされ、負担を負う可能性がある。
- ・生命に危険のない非常に発育の遅いがんが発見され、必要以上の検査や治療を受ける可能性がないわけではない。
- ・放射線被ばく線量は、胃がん検診とほぼ同じで、現時点では安全な範囲とされているが、胸部X線肺がん検診の約7～8倍である。

■65歳以上の人は、1年に1回肺がん検診を受けましょう

若い頃結核が流行していた世代では、結核に既に感染している人が多く、加齢により免疫力が低下することで結核を発症するリスクが高くなります。日本では結核患者の多くは高齢者という現状です。早期に発見し早期に治療を始めることは自身の健康を守るだけでなく、大切な家族や周りの人への感染拡大を防ぐためにも重要です。

65歳以上の人で胸のレントゲンを病院等で撮らない場合は、肺がん検診をお申込みください。